

さ ざ ん か

第 101 号、2010 年 4 月

日中は初夏を思わせる陽気だったかと思うと、朝晩は嘘みたいに冷え込んだりしております。みなさま、体調管理には十分にお気をつけ下さい。

新年度が始まりました。もう、新大学生も、新社会人も、あるいは、新高校生、新中学生、新幼稚園児、新保育園児も環境になれたでしょうか。今年の春生まれたばかりの新赤ちゃんは人間世界に慣れたかなあ。十月十日も安全なお母さんの羊水に守られた身には、免疫学的にも栄養学的にも大変な環境にさらされることになるのですが、勿論、当の赤ちゃんはそんな事何にも知りませんから、赤ちゃん本人は大変だとは思ってないはずです。周りから見ると大変でも、当事者にとっては何が大変なのか、どう大変なのか分からなかったりすることもありますよね。あまり大変、大変だと言わないほうが良いような気もしませんか。

デフレで大変だ、3K仕事で大変だ、夜勤があって大変だ、プライベートの時間が取れなくて大変だ、親の面倒を見ていて大変だ、子供の教育に大変だ、人付き合いに気を使って大変だ、勉強、勉強で大変だ・・・勿論、みんな大変なのでしょうけど。

赤ちゃんの場合は、お母さんという存在があるから大変だとも思わずに生きていけるのですが、その母の代わりになるものがあれば、少しは大変さも減るかもしれませんね。それは、忍耐力であったり、寛容さであったり、樂觀であったり、辛抱強さであったり、明るさであったりするのかもしれませんが。

当たり前ですが、人生は一度。二度とは死ねないし、一度は必ず死ななければならない。死んだ経験を他人には絶対に話せないし、話した人もいない。死後の世界を見た人はいるかもしれないが、それを生きている人に伝えた人は居ない。「死後の世界」体験記は絶対に書くことができないという、数少ないこの世の「絶対」の一つです。

新人であることも、一回切りと言えば一回切りなのですから、せつかくの人生、「死ぬ気で」過ごしてみたり、あるいは「死んだつもり」で働いたり、「いつ死んでも悔いのないように」遊んでみたり、いろいろな新生活を楽しんで欲しいものだと思います。死んだことがないのに、死を語る、というのもまた人間の知恵、想像力がなせる業でしょうから、人間らしく想像力に満ちた新生活を過ごされることを願っております。

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

病院からのお知らせ

- * 新型インフルエンザワクチンはほぼ今回は終息したようです。多分、これから先もずっとウイルスとの戦いは続きます。今回の新型インフルエンザ対策が良い教訓になればと思います。
- * 病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりましたが、とりあえず4月から義務付けは解除いたしました。可能な方はマスク着用を継続下さい。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 4月から医師の異動がありました。

内田章文→田口宏樹 先生

堂嶽洋一→米澤英里 先生

平野拓郎→上村豪 先生 に変わります。

よろしく願いいたします。いずれも新進気鋭の若手医師です。ご期待下さい。

俳句 西屋敷 喜美子

ラブラブね 孫の言葉や 春炬燵
これからの 我が人生や 春惜しむ
花冷えや 丸くはならぬ 老2人

カラーマンの女

春爛漫 誘惑に満ちる 都かな
ひとり発つ 春の夕暮れ 君想う
君が居て 春爛漫の ふるさとや

これまでの自分を見つめて 別府政隆

さざんかに出会い、早や1年が過ぎました。文集が好きな自分だけに、当時さざんかを手にしたのがきっかけでした。看護師さんからのすすめで十数回の投稿をしました。日々の過ぎ去ることの早さをしみじみ感じる今日この頃です。時の速さは、確かに時代を変えています。私達の薩摩川内市が誕生してから今年で7年目を迎えました。この7年間自分はどうだったのだろうか。ただ漫然と一日一日を生きるより、この人生を振り返る必要があるだろうと思うのである。

高齢化社会の中に生きていく私達の生きざまはどんな生き方で生涯を終わるのだろうか。何とか元気なときは考えないのですが、いざ病気になると一段とわびしさを感じるのでは。人は健康であってこそ高齢者として自信を持った生活が出来るのです。高齢者に始まる認知症と云う物忘れの病気、これに老夫婦のいずれかがなると大変な生活が待って居る。併し現実はいか遅いかの問題で、さけて通れないのです。テレビで放映される老介護問題をみて皆さんはどのように感じられるだろうか。少子高齢化の時代に今私達高齢者はどう生きていけばいいのか。足手まといの高齢者にはなりたいとは、思わないが、自然に足手まといになるのではないだろうか。今、若かった昔の頃を懐かしんでいます。残さ

れた人生を前向きに悔いのないように過ごしたいものです。

一言

宮園辰夫

俳句や短歌は文学の底辺をなすと同時にその文学的レベルの高さは小説を始めとする文学と肩をならべ得る高さをもつものである。なだらかな傾斜をなす桜島や開聞岳のような山だと思えばよい。どのような文学にしる、芸道にしる、深く修めないと本当に深い陶醉境は得られない。俳句や短歌にしても同様。標高の高さをめざして登ることが大事。俳句を馬鹿にせず、充分吟味し鑑賞できる能力がなければなかなか叶えられない。皆さま何でも良いから書いて見よう、そして作ってみよう。

俳句

桜散って 千手の重し 観世音
治癒の友 久しく茶話の 春障子

川柳

恋の仇 今や年老い 暮が仇に
十代の 恋はいまでも ほろ苦い

短歌

いにしへの 恋文なぞり 幾年の 淡い思いに 心ときめく
春を待つ 思いに作る お弁当 今朝は 菜の花、胡麻和えにして

これでおしまい、ハイさよなら

カラーマン(とそのオンナ)

死に臨んだ人達が最後に残した言葉や辞世の句などを見ると、ほぼ共通することは、人生はほんの一瞬の夢のようなものと感じているのと同時に、何かしらもう十分生きてきたなあと思う満足感を漂わせたりしていることが多い。

勝海舟「これでおしまい」77歳：死の直前、妹に漏らしたとされる言葉

西郷隆盛「晋どん、もうここらでよか」51歳：足と下腹を撃たれて動けなくなった西郷が、部下の別府晋介に介錯を促した際の言葉とされる。

坂本竜馬「俺は脳をやられた、もういかん」32歳：事切れる寸前の言葉

土方歳三「すまんのう」35歳：最期の瞬間、助け起した元新撰組隊士に言った言葉

松尾芭蕉「旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る」51歳

正岡子規「糸瓜咲いて痰のつまりし仏かな」36歳

沖田総司「ばあさん、あの黒猫はまた来ているだろうなあ」 27歳：猫とにらみ合ったあと、目を閉じたまま老婆にこの言葉をかけその後急にこん睡状態に陥った。

くわしくは「これでおしまい」（加来耕三 グラフ社）をご参照下さい。

まあ、人の最後の言葉とか辞世の句を知ったところでどうってことないといえどどうってことないことである。だからどうした？ってところか。

（そういう言い方をすると、世の中、どうってことないことばかりになってしまうわね。巨人が勝とうが阪神が勝とうがどうってことないし、サッカーワールドカップで日本が全敗してもどうってことないし、民主党の支持率が急落しても、自民党を脱党して次から次に新党をつくっても、みんなどうってことないわねえ）

そうだよなあ。結局は、何を持って関心ごととするか、何を持って「どうってことないものじゃないものとするか、それが大事なのだなあ。たかが俳句（？）如きに命を懸けた松尾芭蕉の句は、日本文化を代表する芸術となっていて普遍の評価を得ている。

たった17語の世界最小、最短の言葉の芸術である。「閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声」「古池や 蛙飛びこむ 水のおと」「秋深き 隣は何を する人ぞ」

な、なんだこれは！たったこれだけで、何となくジーンと来るではないか。沢山の情景が浮かんで来るぞ。5・7・5の単なる語感だけではないのは確かである。子供の頃に覚えたから印象深いだけなのではなさそうだ。

もののあはれ、とは一体なんなのだろう。はかない人生とうらはらなのだろうか。美しい日本の景色や移ろう四季と関係あるのだろうか。言葉では上手く表現できないが、なぜか芭蕉の俳句は「心にしみ入る」様な気がする。

日本語の魔力のようなものか。英語に翻訳した俳句もあるらしい。たとえば、古池の句は、正岡子規の訳だと

The old mere! A frog jumping in The sound of water

とんでもない超日本通の外人、ドナルド・キーン訳だと

The ancient pond A frog leaps in The sound of the water.

となるようだ。

ちなみに正岡子規の「かき食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺」は

As I eat a persimmon I hear the temple bell toll: Horyuji

となるらしい。(ドナルドキーン訳)

うーん、どうなのだろうか。日本語の妙は日本人にしか分からないのかも知れないと思ったりもするなあ。しかし日本語の生のままでないと翻訳では永遠に俳句の良さは分

からない、ということであれば、逆にいうと日本人には永遠に翻訳したシェークスピアではシェークスピアの本質は分からないことになる。生きるべきか死すべきか。

(あたしは、シェークスピアどころか、夏目漱石も正岡子規も分からないし、俳句も有名な俳句くらいは知っているけれど、それ以外は何も分からないわ。そういえば、ニッポンの歴史も、文化もよく知らないといえば、よく知らないなあ。ちゃんと学校では教えてもらってないような気がするなあ。もちろん、真面目に勉強しなかったあたしが悪いのだけど。60数年前に、何故ニッポン国は米英と戦争したのかしら、それもホントのところは知らないのよ)

ひとにはそれぞれの価値観があるだろうし、それにもなうそれぞれの生き方があるのだ。その時代、時代でまた価値観も生き方も変わるのだろう。どうってことないことが、どうってことないことじゃなくなった時に、何かが生まれるのだ。坂本竜馬とか西郷隆盛が現代に生きていたと仮定した時、あの幕末の時代に彼らが演じたことと同じように彼らは現代の世の中を変えられることができただろうか。もちろん、出来たかもしれないし、出来なかったかもしれない。

しかし、今の異常に発達した情報化社会の中では、なかなかの偉業を達するのは困難ではないかと推測は出来る。現代であれば、彼らの行動はすぐ、(女性関係とか自殺未遂とかの)スキャンダルで叩かれたり、スキャンダルではなくても偏向した一方的な新聞記者とかテレビキャスターの報道で誤解されて伝わってしまうであろう。

(もともと、坂本さんとか西郷さんが現代に居たら、と仮定することに無理があるわね。幕末だからこそ坂本、西郷なのだよ。それよりも、彼らに匹敵する現代の西郷、坂本が出てくることを期待したいわ。もちろん、西郷輝彦とか坂本九じゃないわよ、念のため))
うーん、誰も言ってくれないからと云って自らを現代の坂本竜馬とか称していた笑止千万の政治家はいるけどなあ。

けっきょく、彼らがしたことは、時代を憂い、その時代を正しく読み、その時代にとってもっともふさわしい日本の進み方を考え、そのために命をかけて行動したということだろう。少なくとも私心はなく満ち満ちているのは公共心である。現代の西郷、坂本はどこにいるのだろうか。居るとしたら、どこで、誰と、何をしながら雌伏の時を過ごしているのだろうか。

平成の時代を読み、デフレ不況、先細りのニッポン国を正しく力強い方向へ導いてくれ、北朝鮮の核にびびることもなく、人生の最後には安心して辞世の句でも読めるような確かな年金制度を作ってくれる政治家はいないものだろうか。

現代の西郷・坂本が出現するためには、或いは、もっとニッポン国が乱れて、国論が割

れ、国民が不安になり、混乱が極みに達しないといけないのだろうか。

ということは、逆に、彼らの出番がないようなそこそこ平和なニッポン国であったほうがいいのかも、とも思ったりもする。

(なんか今回もワケが分からないわね。長いようで短い人生。歴史に残ることはないけど、歴史に残った彼らに負けないくらい、「十分生きたなあ！」という満足感を持って最後の日を迎えたいわねえ。)

「この世をばどりゃお暇に線香と ともについには灰左様なら」 十返舎一九 67歳

「身はたとい武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂」 吉田松陰 30歳

編集後記

世の中混乱しています。米軍基地問題、高速道路の料金問題、次から次へと湧いてくる新党。また、昨年の政権交代前のような波乱含みの雰囲気がありませんか。せつかく、自民党に見切りをつけて民主党に下駄を預けてみたけどいわゆる50歩100歩、目くそ鼻くその類でしたね。まだ、結論を出すには早すぎますが、やはり新たな枠組みがひつようなのではないかと素人政治評論家は考える次第です。希望のある国家作りのビジョンが欲しいと想います。

なんかこのまま年をとっていくのが不安です。私は、幸せな老人生活を送りたいだいたい、仕事をリタイアしたらあとは遊ぶしかないのですからねえ。それなりの蓄えは必要ですが、それを支える社会制度がまず必要だと思います。貯めたお金は遊びに使いたいと思いますよね。何十年もの勤労の汗と努力の結晶である蓄えを取り崩さなくてすむような最低限の生活を保障する年金制度とか医療制度の充実がいま30歳代以上の人間にとっては、一番大切な課題ではないでしょうか。国民資産の過半数以上を持っているという年寄り(60歳以上)が余裕を持ってお金を浪費できたら経済も上向きになりますよ。お子様に現金配ってどうするのでしょうかねえ。(KT)